

## 歯科衛生士コーナー

# すぐに役立つケースプレゼンテーションのポイント

## —認定歯科衛生士試験への挑戦—

特定非営利活動法人 日本歯周病学会  
 歯科衛生士関連委員会  
 委員長 伊藤 公一

### プロローグ

特定非営利活動法人日本歯周病学会では平成 17 年に認定歯科衛生士制度を発足して以来、暫定期間 3 年間(2008 年 5 月 1 日現在)で、631 名の認定歯科衛生士を誕生させました。しかし、「平成 17 年歯科疾患実態調査」が示すように成人の約 8 割が歯周病に罹患していることから、いまだ歯周病予防および歯周治療が広く国民に実施されているとはいえないのが現状です。したがって、歯周病予防ならびに歯周治療をよりの確かつ効率的に実施し、長期間にわたり国民がその恩恵に浴するためには、今後もさらに多くの有能な歯科衛生士を当学会が認定していくことが必要です。

そこで、本稿では、これから特定非営利活動法人日本歯周病学会認定歯科衛生士試験を受験しようと考えている歯科衛生士の皆さんのために、これまでの認定歯科衛生士試験における審査員および当委員会が話題になった受験者心得、とりわけケースプレゼンテーション(ケースプレ)をどのように行ったら審査員に好印象を与え、合格の可能性が高まるのか、そのポイントをご披露したいと思います。

### 1. 内容のある症例を選択する

院長や指導者の先生と相談して、内容、興味のある症例を選択すると、それだけで審査員は身を乗り出して聞き入るし、発表が少々下手でも聞く耳を持ってくれるでしょう。しかし、残念ながら皆さんが日常臨床でよく遭遇する症例は、プラーク性歯肉炎や慢性歯周炎の症例がほとんどで、ケースプレ向きの稀な、あるいは特殊な症例を担当することはないか、あっても極めて少ないのが現状でしょう。

また、歯周外科、歯周・矯正、歯周補綴、インプラント治療などなど盛沢山の症例をケースプレする受験

者もかなりおりました(図 1, 2)。重度歯周炎患者で歯周治療を含めた包括的治療を長い年月をかけた歯科治療のデパート的な症例のケースプレが不適当であるとは言いませんが、間違えてはならないことは歯周病専門医試験ではなく、あくまでも認定歯科衛生士試験にふさわしい症例をケースプレすることです。

審査員の立場からするとこれだけ高度な歯科治療の技術に携わってきた歯科衛生士なのだから当然、包括的歯科治療の目的、内容もよく理解しているものと考えます。よって、それらに関して質問すると、うまく答えられない方も結構いらっしゃいました。その理由として、院長からこれでケースプレするように言われましたので、私は内容についてはよく分かりません、と聞き直るような態度を取った方もいらっしゃいました。勤務先の院長の指導力の欠如もさることながら、受験者の責任転嫁であり、好ましい受験者の姿勢あるいは態度ではありませんね。

原則としてケースプレを行う症例は、初診時からメンテナンスあるいはサポータティブペリオドンタルセラピー(SPT)期間を通して担当した症例から選別することとなっています。そこで、単純な慢性歯周炎の症例でケースプレを行う時は、歯科衛生士として関わった歯周治療部分に重点を置き、どのように内容をプレゼンするかよく吟味して下さい。私は、この患者の歯周治療では、この治療部分に関わり、何をどのように行いました、その結果このように良好にメンテナンスされています。あるいはメンテナンス中に、このような問題点が生じ、それに対してこのように対処したら、こういう結果となりましたので、発表させていただきます、というような理路整然とした流れと謙虚さがケースプレには必要です。しかし、自分が担当して苦労した部分や強調したい、言いたいところはしっかり主張することがケースプレを行う際の大切なポイントとなります。



図1 歯周外科手術，咬合回復治療など包括的歯科治療例術前



図3 長期経過症例，初診時



図2 図1の術後



図4 図3の初診から25年後

## 2. 起承転結を重視する

多くの受験者の皆さんは，小～高校生時代に作文を書いたことが少ないのではないのでしょうか。また，現在の入学受験や期末試験の多くは，○×をつける，あるいは記号番号などの記入が大半で，論述式の試験を受けたことがある方は，極めて少ないのではないのでしょうか。ケースプレは，口頭発表および質疑応答をもって合否を判定しますので，前項でも述べたように最低限のストーリー性および論理性が要求されます。

認定歯科衛生士のケースプレを行う症例は，メインテナンスあるいはSPTの期間は最低3ヵ月以上とし，6ヵ月以上が望ましいと決められています。単純な歯周病患者ケースでは治療内容も希薄になりがちなので，数年から十年以上にわたる長期症例で対応するのも一手です(図3，4)。症例の年数を見る，聞くだけで患者さんと歯科医療従事者との間に信頼関係が確立されていることが審査員にも十分理解できます。また，長期にわたって良好に経過している，途中で問題が出

たが，このような対応で切り抜けたなどのストーリー性のあるケースプレはより望ましいことになります。

ケースプレの時間は10分，口頭試問(質疑応答)は5分と決まっていますので，時間厳守で終了するよう心がければ，おのずと使用するスライドの枚数も決まります。フィギュアスケートや新体操の選手は，決められたエリア内を目一杯使用し，制限時間ぎりぎりに演技を行います。練習，練習を積み重ねた結果をものの数分で表現するのと同様に，皆さんのケースプレも時間一杯使って表現する必要があるのです，何度も何度も練習することが大切です。

## 3. わかりやすいスライドを作成する

スライド作成のポイントは，背景は単純に見やすくし，グラデュエーションや影文字は使わないことを原則とし，色気違い(ケバケバシイ)スライドにならないように注意しましょう。さらに受験者の顔写真および勤務先の歯科医院の写真は不要です(図5，6)。

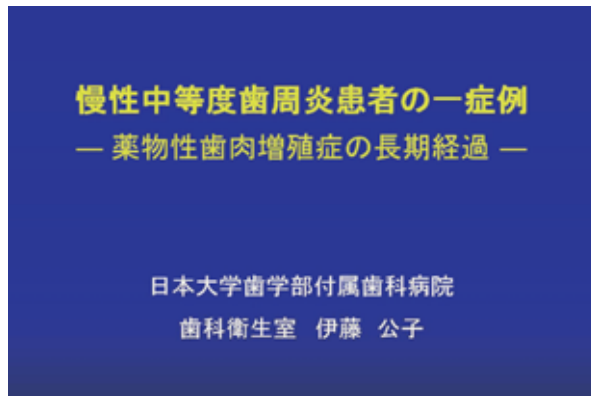


図5 適スライドの例-1

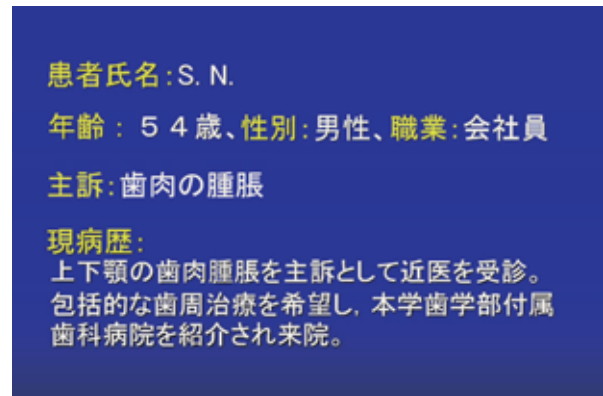


図7 適スライドの例-2



図6 不適スライドの例-1

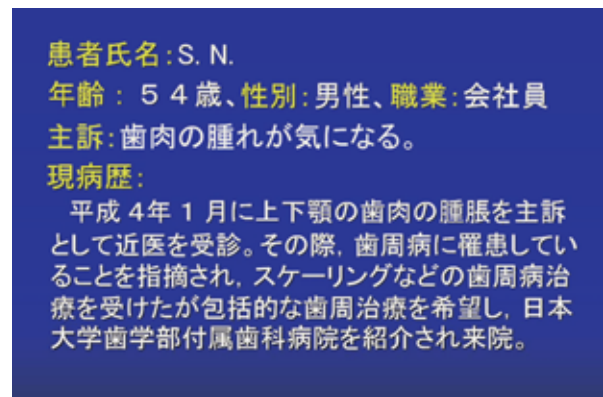


図8 不適スライドの例-2

1枚のスライドに沢山の情報を記載すると文字や図が小さくなり見にくい(醜い)スライドとなるので、注意を要します。スライドは審査員がケースを理解する手段となるので、うまく理解してもらえよう作成することがコツです。審査員がケースプレ中に読みとれる限度は5～8行程度でしょう(図7, 8)。

ハイ次, ハイ次とめまぐるしくスライドが変わるような発表は好ましくないのです。スライドの枚数が多いと、得てしてそうなりがちなので、事前にリハーサルを十分行って時間配分を考えた上で、スライド枚数を適正にして下さい。アニメーションの多用は煩わしく、好ましいケースプレの逆効果となりますので要注意です。

入念に作成したスライドを見て、時間内に終了すれば、この受験者がぜひとも合格したいという熱意は、審査員にも伝わってきます。

口腔内写真は、歯周組織の状態が明瞭に判別できる写真が望まれ、初診時、メンテナンス(SPT)移行時、

メンテナンス(SPT)時の各時点で最低5枚(正面観、左右側方面観および上下咬合面観)が必要となりますので、ピントが合っていること、色、明るさが適正で、構図などが一定であることなどが、ケースプレを引き立てますので、普段からトレーニングして上手く撮影できるようにしておくことが大切です。できることならば舌・口蓋側面観のスライドも提示していただくとよりケースプレが引き立ちます(図9, 10)。

一般的に唇頬側に比べて舌・口蓋側のプラークコントロールは、患者さんおよび歯科医療従事者の双方にとって難しいので、炎症のコントロールがうまくいかないことがあります。すなわち、粗が見えることから意図的にケースプレの時に使用しない方も多々いるのですが、認定歯科衛生士の資格を得るわけですから、当然、舌・口蓋側のプラークコントロールは歯肉縁下を対象として自分でできるように、また患者さんが歯肉縁上を対象としてできるように指導しなければならないわけですから、その成果を見ることができるよう





図9 口腔内写真の提示例-1, 上下顎咬合面観では臼歯部歯肉の状態がわかりにくい。8番がある場合は開口の度合いにより写らない時がある。



図10 口腔内写真の提示例-2, 上下顎の前歯部および臼歯部の舌・口蓋側面と分けて撮影することで図9の不備が解消できる。

に積極的に提示してもらいたいと思います。すなわち、スライド(写真)での記録は、認定歯科衛生士受験のためというよりも、日常臨床において患者さんの治療の記録としてより重要な意味を持つわけです。スケーリングやルートプレーニングなどの歯周治療を行った後、歯肉縁上プラークコントロールが不良で炎症が残存しているのか、歯肉縁下にプラークや歯石が残存して炎症が消退しないのかを見極めるのにも活用できます。歯の裏側にも歯肉はあることを忘れないようにして下さい。

#### 4. 原稿作成時の注意

スライドは受験者のメモ代りではありません。発表原稿をしっかりと作成することが必要で、パワーポイントを使ってスライド作成後、下段のノートに読み上げ

患者氏名:S. N.

年齢: 54歳、性別: 男性、職業: 会社員

主訴: 歯肉の腫脹

現病歴:

上下顎の歯肉腫脹を主訴として近医を受診。包括的な歯周治療を希望し、本学歯学部付属歯科病院を紹介され来院。

患者氏名はS. N.さん。初診時54歳、男性です。職業は会社員です。主訴は、歯肉の腫れが気になるということでした。

患者は平成4年1月に上下顎の歯肉の腫脹を主訴として近医を受診。その際、歯周病に罹患していることを指摘され、スケーリングなどの歯周病治療を受けたが包括的な歯周治療を希望し、日本大学歯学部附属歯科病院を紹介され来院し、同日、私が担当となりました。

(スライドをお願いします。)

図11 パワーポイントからノートを用いて原稿作成、図7参照。

原稿を入力するとスライドに対応した原稿を順次作成することができます。全部でき上がったら、印刷時に「印刷対象」の中から「ノート」を選択し、「カラー」で印刷すれば、発表原稿作成は簡単にできるのです(図11)。

ある受験者が試験会場のパソコンに自分で持参したUSBを接続しケースプレの点検をしたところ、USBの中身は空だったのです。さあ、彼女は顔面蒼白、パニック状態に陥ってしまい大変でした。そのような場合でも、もしノートで作成し、カラー印刷した資料があれば、ほぼプレゼン内容がわかりますので、仮受験することはできますね。転ばぬ先の杖の例えのごとく、USBの事前点検は各自の責任範囲内で必ず行って下さい。また、ウイルスチェックも普段から、まめに行いましょう。過去のケースプレで感染したUSBを持参し、他の受験者の皆さんに大変迷惑をかけた事例もありました。感染防御に努めることは歯周治療の基本原則とも相通ずるところがありますので、肝に銘じておきましょう。

5. 大きい声ではっきりと話し、質疑応答は端的に  
通常、ケースプレを行う部屋(試験会場)は小さいのでマイクは使用しません。ケースプレを聴いているのは、審査員のみですから部屋の大きさを考えて、その部屋に見合う大きな声で、語尾をはっきりとさせて明瞭に話すことがケースプレのポイントです。誤りがないように原稿を読み上げても結構ですが、単調な棒読みにならないように心がけ、そのためにも原稿作成時には長文とならないように工夫する必要があります。

質問の意味がわからないときは、「ご質問の要点をもう一度いっていただけませんか」と丁寧に聞き返したらよいでしょう。あるいは、受験者から聞き返すことによって審査員の聴こうとしていることを確かめることもできます。答えられない、あるいは分からない質問に対しては「わかりません」とはっきり答えましょう。ただし、すべての答えが「わかりません」では困りますが……院長や同僚歯科衛生士の皆さんとケースプレの予行演習を行い、想定質問を作成し、質疑応答の練習をしておくことが大切です。

### エピローグ

ケースプレは、一種のコミュニケーションです。すなわち、相手(審査員、試験官)にわかってもらうことが大切であることから、

受験者はそれなりの努力をしなければなりません。

そのためにも、ケースプレの準備には十分時間をかけましょう。ケースプレの肝心な内容をいかに審査員に伝えるか、そのためにはいかに枝葉を取り、推敲に推敲を重ねブラッシュアップした原稿を作成することがポイントとなります。

十分吟味した原稿を基に、分りやすいスライドを作成し、リハーサルを反復し、時間内に終了するようにし、先生、同僚にケースプレの内容を聞いてもらい、批評を受け、問題点があれば修正しましょう。努力し、練習を重ねれば、必ず上手くなります。一般的に、受験者が上がってしまい、ケースプレがなかなかうまくいかないのが普通なのです。しかし、ケースプレの内容がしっかりしていて、リハーサルも十分していれば、上がり気味のほうが「本番」はうまくいくことが多いのです。アドレナリンを分泌して戦闘(発表)モードにしておくことも大切なポイントになるでしょう。

合格点ギリギリのケースでもうまくケースプレすれば満点にもなるでしょうし、下手なら不合格になるでしょう。とにかく「わかりやすく」発表することが、審査員を納得させるポイントとなります。

以上、ケースプレのポイントを解説してみました。認定歯科衛生士を受験される皆様と、さらに、すでに認定歯科衛生士として講演会や研修会などで活躍されている方々にもご一読いただき、ケースプレのブラッシュアップのお役に立てば幸いです。